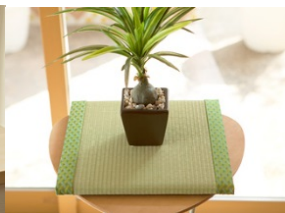
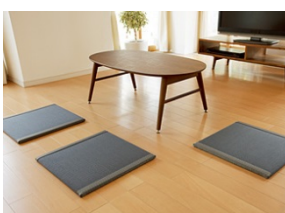


受賞者のその後の取組（平成 29 年現在）

平成25年度 農林水産大臣賞 「事業所・地方公共団体等」分野 受賞	受賞者名	株式会社 伊藤園
	所在地	東京都渋谷区
	受賞テーマ	茶殻リサイクルシステム～茶殻を身近な製品へリサイクル～
1. 活動継続 あり 農林水産大臣賞を受賞後、「茶殻リサイクル製品」の新規開発を継続的に実施し、市場展開している。 また、当社では、「茶殻リサイクル製品」の自社活用も積極的にやっているが、受賞後も自社活用を継続・拡大させている。 例えば、2011 年度（2011 年 5 月～2012 年 4 月）は、当社主力製品である「お～いお茶」など 2,577 万ケースに茶殻入り段ボールを活用していたが、2015 年度（2015 年 5 月～2016 年 4 月）には 5,365 万ケースに拡大した。		
		 茶殻入り段ボール (お～いお茶 525mlPET)
2. 活動の広がり あり 農林水産大臣賞を受賞後、「茶殻リサイクル製品」の新規開発を継続的に実施し、様々な異業種他社と下記商品（一例）を市場展開した。 また、茶殻をリサイクルした紙に関しては、今まで開発した封筒、紙器、紙ナプキン、キッチンペーパーなどの他に、各種パンフレットなどに採用されるなど用途開発も広がりを見せている。		
異業種他社と新開発した茶殻リサイクル製品		
 折りたたみ椅子	 パレット（当社でも活用）	 つみき
 線香	 マスクケース	 足つぼマット
 飾り畳	 座り畳	 座り畳

3. 活動の進化 あり

「茶殻リサイクル製品」の新規開発を継続的に実施し、リサイクルの幅を拡大する一方で、協力企業に対する支援（体制強化）を目的として外部の認定取得などを積極的に行っている。

例えば、茶殻をリサイクルした茶配合ボードが「省エネ住宅ポイント」や「住宅ストック循環支援事業補助金」に登録された（飲料業界初の取り組み）。

他の表彰の受賞履歴・外部の認定取得（平成 25 年以降）

- ・ 茶殻をリサイクルした茶配合ボードが国土交通省の「省エネ住宅ポイント※¹」の対象製品に登録された（平成 26 年）
- ・ エコマークアワード 2014 銀賞受賞（平成 27 年）
- ・ 茶殻をリサイクルした茶配合ボードが国土交通省の「住宅ストック循環支援事業補助金※²」の対象製品に登録された（平成 28 年）

※1 省エネ住宅ポイント制度：省エネ住宅の新築やエコリフォームの普及を図るとともに、消費者の需要を喚起し、住宅投資の拡大を図る事を目的とし、一定の省エネ性能を有する住宅の新築やエコリフォームに対して、様々な商品等と交換できるポイントを発行する制度

※2 住宅ストック循環支援事業補助金：良質な既存住宅の市場流通を促進し、若者の住居費負担の軽減及び既存住宅流通市場の拡大、耐震化率・省エネ適合率の向上等良質な住宅ストックの形成及びリフォーム市場の拡大を目的とした補助金制度

4. 今後の計画

当社は、2000 年より「茶殻リサイクル製品」の新規開発を継続的に実施し、リサイクルの幅を拡大している。

2000 年から永続的に「茶殻リサイクル製品」の研究を行っているため、共同開発途中の工業製品が数多く存在している。

このようなリサイクル研究の継続性により、茶殻リサイクル製品の新商品を毎年のように市場展開することができる。

一例として、当社は茶殻リサイクルシステムを中小企業の新製品開発などに役立てていただけるよう、自治体などと連動しているが、この活動が実を結び、「新たな茶殻リサイクル製品」の開発に成功した（2017 年中に発表予定）。

5. 特記事項

茶殻リサイクルシステムの技術を応用して、コーヒーを焙煎する際に発生するコーヒー豆皮（シルバースキン）を利用した薄葉紙（紙ナプキン）を開発し、当社連結子会社のタリーズコーヒー ジャパンが運営するスペシャルティコーヒーショップ「タリーズコーヒー」全店に、2012 年 7 月下旬から導入した。

その後、コーヒー豆皮（シルバースキン）の薄葉紙（紙ナプキン）は、市場に受け入れられて、他コーヒーショップなどでも使用されるようになった。

また、一般消費者の要望もあり、インターネット、100 円ショップなどでも販売している。



タリーズコーヒー
の紙ナプキン



一般販売している
コーヒー豆皮紙
ナプキン

【表彰概要】

同社の主力商品である「お〜いお茶」等の茶系飲料を生産した際の茶殻排出量は2011年度（2011年5月～2012年4月）で約47,400t（緑茶殻は約28,500t）であった（水分率：約85%～95%）。同社は、これら茶系飲料の生産をほとんど外部委託しているが、「たとえ外部委託先の廃棄物でも同社の製品を製造した廃棄物を同社の手で有効活用したい」という考えのもと、茶殻の有効活用方法を模索していた。

同社の茶系飲料は、日本全国の飲料委託工場にて生産しており、各地で茶殻が排出される。北海道や九州など農業が盛んな地域では、近隣農家にて茶殻を堆肥や飼料に有効活用することができ、将来も需要が見込める。しかし、工業地帯など近隣に農家が少ない地域では、将来的に茶殻堆肥・飼料を遠隔の農業地域へ輸送する必要があり、輸送エネルギーなど環境負荷を与える可能性がある。同社は、10年・20年先の未来を見据えて、近隣に農家が少ない地域の飲料委託工場を選定し、茶殻に残存するカテキンなどの有用成分を活用した「堆肥・飼料以外のリサイクル製品」の開発を進めてきた。

茶殻は多量の水を含んでおり、腐敗しやすい等の欠点がある。そこで、排出直後の茶殻の処理として、乾燥して再利用する方法が考えられる。しかし、乾燥時に多くのエネルギーを消費するだけでなく、乾燥機使用によるCO₂排出など環境に悪影響を及ぼし、持続不可能なビジネスとなる場合がある。

同社は、それらの課題を克服して「含水茶殻を保管する技術」、「含水茶殻の輸送技術」、「茶殻リサイクル製品製造時における含水茶殻の配合技術」など、茶殻を工業製品の原料として有効活用させる技術開発に成功した。

これら「茶殻リサイクル製品」は、建材・樹脂製品・紙製品などの異業種他社（専門会社）とコミュニケーションの環を形成して市場展開している。それらの異業種他社との環境コミュニケーションは、営業同士だけでなく、飲料工場（外部委託先）、茶殻リサイクル製品工場、販売先など様々な企業で形成している。

このように、「茶殻リサイクルシステム」は、茶殻の事前乾燥を必要とせず、かつ茶の機能性を活かした茶殻リサイクル製品を開発し、専門会社と協力しながら様々な分野に持続可能なビジネスとして展開するシステムである。

茶殻製品（一例）



茶殻入りダンボール



茶殻入りパッケージ
(茶殻入りマイクロフルーツ) お茶殻入り封筒



茶殻入り折紙（左）
茶殻入り千代紙（右）



茶殻入り
紙ナプキン



茶殻入り畳
「さらり畳」



茶殻入り
キッチンペーパー



茶殻入りカレンダー



茶殻入りマッチ



茶殻入り
インソール